



芦屋市胃がん検診（内視鏡検査）説明書



この説明書をよく読み、理解したうえで検診を受診してください。

検診を受診するには、別紙の同意書へのご署名が必要です。

【胃がん検診(内視鏡検査)注意事項について】

○検査を受診できない方について【受診除外者】

※検査当日の医師の判断により、検査を行わない場合があります。

- ・検査に関する説明の理解や同意が得られない方
- ・妊娠中の方
- ・胃の病気で受診中の方
- ・入院中の方
- ・胃全摘術後の方
- ・のどや鼻の病気により内視鏡が挿入できない方
- ・呼吸状態が悪い方
- ・重い心疾患のある方
- ・血圧が非常に高い方
(検査直前に血圧を測り、受診の可否を判断します)
- ・全身状態が悪い方
- ・その他、診療が優先される方

【胃がん検診について】

○胃がんとは

胃の壁の内側をおおう粘膜の細胞が、何らかの原因でがん細胞となり、無秩序に増えていくことにより発生します。

○胃がんの影響

年間124,319人が胃がんと診断され(2019年データ)、人口10万人あたり34.3人が胃がんにより亡くなっています(2020年データ)。がんは、日本人の死因の1位となっており、胃がんは、3番目に死亡者数の多いがんです(2020年データ)。

○胃がん検診の目的

早期に胃がんを発見し、治療につなげることで、胃がんによる死亡を減らすために、芦屋市では、胃がん検診を実施しています。

○胃がん検診の方法

胃がん検診には、内視鏡検査(胃カメラ)と、胃部X線撮影(バリウム)の2種類の方法があります。

どちらの方法も良い点・悪い点を併せ持っています。ご自身の状態に合わせて検査方法を選んでください。

○芦屋市の胃がん検診の方法

〈対象年齢・費用・実施場所〉

検診の対象年齢・費用・実施場所・受診間隔は以下のとおりです。

検査方法	対象者	費用	実施場所
内視鏡検査	受診時に 50 歳以上 PI【受診除外者】にあたる方は、 受診できませんのでご注意ください	4,300 円 ※1 費用の免除について参照 (70 歳以上の方も費用がかかります)	市内実施医療機関
胃部 X 線撮影 (バリウム)	受診時に 35 歳以上 ※血縁者に胃がんの方がいれば 30 歳以上	2,500 円 ※2 費用の免除について参照	芦屋市こども家庭・保健センター

※1 費用の免除について【内視鏡検査】:生活保護受給者、市民税非課税世帯に属する方は費用が免除になります。
(こども家庭・保健センターにて事前申請が必要。要本人確認書類)

※2 費用の免除について【胃部 X 線撮影】:内視鏡検査の要件に加えて、70 歳以上の方、70 歳未満で後期高齢者医療制度加入者は、費用が免除になります。

〈受診間隔〉

今年度	次年度の受診の可否	
内視鏡検査	X 線撮影	×
	内視鏡検査	×
X 線撮影	X 線撮影	○
	内視鏡検査	○

胃がん検診は、早期発見のため、定期的に受診してください。

受診間隔は、内視鏡検査は、2年に1回、胃部 X 線撮影(バリウム)は、1年に1回です。

【内視鏡検査について】

○実施方法

口や鼻から内視鏡を挿入し、食道・胃・十二指腸を内腔から観察し、病気を探します。また、色素を散布して、病変を見つけやすくすることがあります。

※市の検診では、のど/鼻腔への局所麻酔のみ行います。

(※眠たくなる注射(鎮静薬)・局所麻酔以外の痛み止め(鎮痛薬)は希望されても実施できません。)

※異常がある場合には、病変の一部をつまみ(生検)、細胞の検査を行うことがあります。

(※検診費用に加えて、別途、医療費がかかります。)

○内視鏡検査のメリット(良いところ)について

- ・検査を実施することで、食道・胃・十二指腸までを観察し、早期のがんを見つけることができます。
- ・胃がんの発症リスクとされるピロリ菌の感染状況を確認することにもつながります。
ピロリ菌を除去することにより、自身の胃がん発症リスクを低下させ、他者への感染も防げます。

○内視鏡検査のデメリット(良くないところ)について

〈偶発症〉

検査を実施することによる、偶発症(医療行為に伴って予期せず起こる合併症)が発生する割合は、検診の場合 10 万件中 76 件と、非常に少ないことが全国調査により報告されています。現在、検診による死亡事故は報告されていませんが、ごくまれに死亡の可能性もあります。

偶発症の種類

- ・胃内視鏡により粘膜に傷がつく、出血、穿孔（穴があくこと）
- ・生検による出血、穿孔
- ・薬剤によるアレルギー（呼吸困難、血圧低下など）
- ・検査前からあった疾患の悪化（症状の出ていなかった疾患も含む）
- ・鼻から内視鏡を挿入する場合の、鼻の痛み など

検査時には、偶発症の防止のために十分な注意を払い、万が一偶発症が発生した場合には、最善の対応を行います。

〈偽陰性・偽陽性〉

検査の正確性には限界があり、胃がんがあるにも関わらず「異常なし」と判定されること（偽陰性）、胃がんではないにも関わらず「胃がん疑い」と判定されること（偽陽性）がまれにあります。

検査の正確性を高めるよう、努力を行いますが、検査で「**異常なし**」と判定された場合でも、**胃の痛み・不快感・食欲不振・食事がつかえるなどの症状がみられた際は、受診をしてください。**

【検査前の注意事項について】

〈食事〉 検査開始予定時刻の **12時間前まで**に終えてください。飲水は検査直前まで可能です。

〈薬〉 当日朝に内服が必要な薬については、事前に検査医に相談してください。

※**糖尿病治療のための薬**は、**内服しないでください。**

※**抗血栓薬等の薬**は、検査前に休薬していただく場合があります。**主治医・検査実施医にご相談ください。**

〈喫煙〉 検査当日は、喫煙しないでください。

【当日の持ち物】

・健康保険証（生活保護受給者の方は生活保護受給者証）

・検診費用（4,300円）

※**異常があり病変の一部をつまみ、細胞の検査を行った（生検）場合、検診費用に加え、5,000円程度医療費がかかります。処置によっては、さらに追加費用がかかる場合があります。**

・お薬手帳（服薬中の方のみ）

・芦屋市がん検診利用免除通知書（生活保護受給者、非課税世帯に属する方。事前に、こども家庭・保健センターでの申請が必要です）

【検査にかかる注意事項】

・偶発症に関する死亡例の多くが「鎮痛薬・鎮静薬」に起因していたことから、**局所麻酔以外の痛み止め（鎮痛薬）や、眠たくなる注射（鎮静薬）は希望されても使用できません。**

・検診中に異常を発見し、検査医が必要と判断した場合には、病変の一部をつまみ（生検）、細胞の検査を行うことがあります。

生検は胃がん検診（内視鏡検査）には含まれません。生検にかかった医療費は、別途、医療機関窓口でお支払いいただきます。（健康保険等が適用されます。）

【検査の流れ】（検査所要時間は約20分～30分です）

- ・胃の中を見やすくするための前処置薬を飲みます。
- ・医師が、内視鏡を鼻か口のどちらから挿入するか決めます。

鼻から挿入する場合

- ・鼻の通りを良くし、出血を防ぐための薬を両側鼻腔に注入します。
- ・内視鏡を挿入する側の鼻腔に麻酔をします。

口から挿入する場合

- ・喉に麻酔をします。
- ・医師が必要と判断した場合、胃の動きを抑える薬を注射します。
- ・内視鏡を挿入し、食道・胃・十二指腸を内腔から観察・撮影します。(内視鏡の挿入時間は5分～10分です)

※鼻から挿入する場合、鼻腔が狭ければ反対側からの挿入を試みます。両側の鼻腔が狭い場合は、口からの挿入に変更することがあります。

【検査終了後の注意事項】

〈食事〉 検査終了後、指示された時間以降に、水分・食事摂取が可能となります。

〈医師への相談〉 検査終了後に嘔吐や黒色便などの異常がある場合には、検査医に相談してください。
※粘膜の性状を詳しく観察するために、色素(インジゴカルミン)を散布した場合、便が青緑色に色づくことや、尿に青みがかかることがありますが、体に害はありません。

※生検を受けた方へ

〈食事〉 生検により粘膜に傷ができているため、検査当日は、軟らかい消化のよい食べ物を摂取し、刺激物や飲酒は控えてください。

〈生活〉 検査当日は、激しい運動、長湯、旅行は控えてください。

【検診結果返却】

検査結果は2週間から1か月後に返却します。

2名の医師で、撮影した画像を確認した後に最終的な判定を決定しますので、必ず検査結果の説明を聞きに受診してください。

検査の時点で、急を要する症状があると医師が判断した場合に限り、最終結果を待たずに治療を開始する場合があります。

【精密検査対象となった方へ】

精密検査や治療が必要と判定された場合は、医師の指示により追加の検査(内視鏡検査や生検など)や治療を受けてください。(※別途医療費がかかります)

検診を受けた医療機関とは別の医療機関にて精密検査を受診する場合は、健康保険証と精密検査依頼書一式を持参ください。

検診を継続して受診することで、胃がんによる死亡を減らすことにつながります。
今回異常が認められなかった方は、2年後に胃がん検診を受けましょう。

※症状がある場合は、次の検診を待たずに医療機関を受診してください。